

SC-53 クリアな頭が必要 (イエローはどこへシュートすべきか?)**“A clear head needed” by Lary Faris** 抄訳: 薩川俊三

シャフルボードは幾つかの状況で、ボードをクリアすることが必要だ。今回の状況では、頭をクリアにすることが必要だ。

1989年のサマーナショナルの75ポイント・シングルゲームで、私は1フレームの間に幸運にも相手のディスク2つを10オフに入れた。ブラックの相手はハンマーを持ち、私は第7ディスクをシュートしようとしている。ボード上には対戦相手の10オフ2つと8得点がある(図1)。私はこのフレームで出来るだけ多い得点差になるシュートを選びたい。

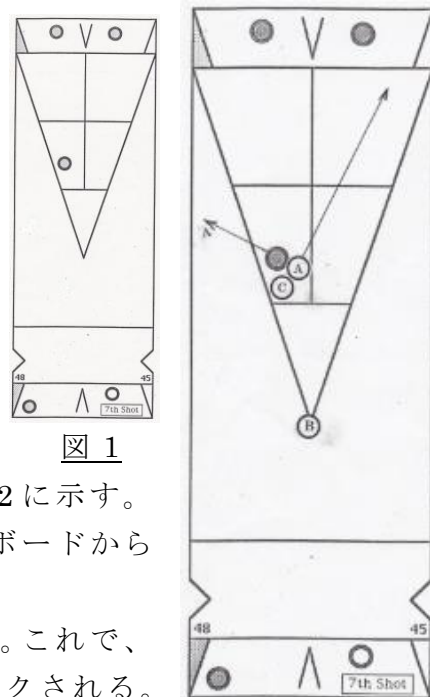


図1

イエローには次の3つのシュートが考えられる。図2に示す。

- A. ブラック8得点の外側に当てて、そのディスクをボードからクリアし、キュー・ディスクもボードの外へ出す。
- B. 右側のブラック10オフ・ディスクをブロックする。これで、ボード右側のオープン8エリアへのルートがブロックされる。
- C. ブラック8得点の手前のスペースに8得点する。

図2

私は頭がクリアでなく、ぼんやりしていたのでCを選んだ。私は相手の8ディスクに完全なスナグル(相手のディスクの直ぐ手前に得点すること)することを考えていた。ぼんやりしていた私はそれを良い選択だと思った。しかし、それはうまくいく方法ではなかった。私は思っていたより少し強くシュートして、ブラック8得点の右側に当て、ブラック8得点は8エリアの外側寄りのコーナーに移動した。私のイエローディスクは8エリアの真ん中に残り、その背後には相手の10オフ・ディスクが2つあった。相手はハンマーを私の8得点に当てて置き換え、私の8得点は10オフ・エリアに行って相手の10オフ・ディスクの1つと置き換わった。

正しくない選択をするのは、若しこのショットが望みどおりにいかなかったら何が起ることがあるかを考えないからだ。失敗した場合の危険を考えないからだ。私達は望んだ所に正確に素晴らしいシュートをしたいと常に思っていて、あらゆる素晴らしいショットの成功を想像している。それが判断を誤らせることがある。私達は頭をクリアにしている、若しこのショットが少しそれたら何が起るかも考えなければならない。

ここでは、AとBが、Cよりも失敗した場合の危険が小さい選択だ。Aは、当ててスティックする失敗をしても、大きな損害にはならない。Bは全く危険が無い。簡単なブロックを置くシュートを失敗することは殆どない。例え少しそれでも大きな災難にならない。正しい選択はBで、クリアな頭のプレイヤーはそれを選ぶ。

(訳者注: 米国のトッププロ Lary Faris が新聞に連載した”Shuffleboard Coach”の抄訳)